



松が谷中学校だより

<https://hachioji-school.ed.jp/mtgyj/>

令和7年7月11日

第2号

地域運営学校

八王子市立松が谷中学校

命(いのち)と平和を考える良い機会

校長 川島 隆

1年の半分が過ぎてしまいました。暑さの真っ只中で、この先の気温の変化が気になります。体調面はもちろんですが、地球規模で考えたときに、気候変動がもたらす動植物への影響も気になります。ある程度予測できる災害とそうでないものとの区別がしづらくなり、災害に対する備えも見直す必要があるように思えます。人の歴史と災害の歴史は切っても切れない縁であり、災害に立ち向かう工夫が科学技術の発展の基になったとも言えます。医学の発展も目覚ましいものがあり、この70年間で平均寿命は20歳程度上昇しています。病気を治す薬品の開発や健康な生活に対する意識の向上が急速に図られたことが要因だと思われます。

当たり前のことですが、私たちの命は、代々受け継がれてきたものです。他の動植物も同じです。地球上に急に出現する命はありません。私たちの祖先は、様々の苦難を乗り越えながら命のバトンを次から次へと受け渡してきました。そして、今の自分が誕生しているのです。過去を旅するタイムマシンがあり、何かの手違いで、過去に一つでも命のつながりが途絶えると今の自分は存在しないことになってしまいます。別の世界が存在してしまうのでしょうか。貴重な命のバトンの末に自分が存在していることを誰に感謝したら良いのでしょうか。確かな事実は、皆それぞれに祖先があること。そして、今を共有している仲間たちに縁の不思議さと仲間意識をもち、お互いの存在と命を大切にする行動を一つでも多く経験をして、後の人に引き継いでいきましょう。

毎年6月から8月にかけて、80年前に終わった太平洋戦争の話題がメディアで取り上げられます。唯一の被爆国日本にとって世界に語りかけることは何かを考えながら、世界と対話をしなければなりません。平和を考える上で、忘れてはならない代表的な日は、4つあります。6月23日(沖縄慰霊の日)、8月6日(広島原爆の日)、8月9日(長崎原爆の日)、8月15日(終戦の日)です。テレビや新聞等でこの時期は様々な特集が組まれます。当時の経験を語られる人も年々少なくなってきました。寂しいことですが、これも時代の流れです。残された私たちは何ができるかを考えながら、私たちも後から来る人たちに何かを残しておきましょう。

6月25日に、外務省に勤務する卒業生を招き、「わが母校 松が谷中学校から 世界へ」というテーマで創立50周年記念講演会を体育館にて行いました。



